

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 7～13 節 ＞
ただ不思議な話ではない。細部も全体からも深い意味を持つ話。

1 (1-6) 人間の企みの遂行 × (7-13) 神様のご計画の遂行。

先週の個所(1-6)は、人間が悪いことを企ててそれを遂行していこうとすることが記されていた箇所だと言えるでしょう。だとすると、今日の個所(7-13)は、神様がイエス様を通して遂行されようとしていることが記されている箇所だと言えるでしょう。人間が行った前者の行為に対して後者の神様の行為はどういう意味を持って来るのか、それが今日の個所を読んで考えなければならないことなのです。それはまだ今日の個所だけでは分かりません。しかし、私たちはこの先起こることを知っています。そのことから考えることができるし、考えるのであり、それが大事なことです。

2 除酵祭。過越の食事。 これら自体が持つ大事な意味。

この個所を読む際には、除酵祭と過越の食事が持つ深い意味を知っておかなければなりません。それはかつて神様によってイスラエル人がエジプトから救い出された時の出来事（出エジプト記 12 章 1-13 章 10 節）が関係しており、それ（神様の救い）を思い出させてくれる大事なものでした。頑ななエジプト人に与えられた災いをイスラエル人が過ぎ越すために家の鴨居に塗られた子羊の血、この神様の救いの出来事を忘れないためにそれ以来なされ続けて来た過越の食事。このことを知るイスラエル人の中で、この後のイエス様の十字架の死と復活の出来事が起こったのです。神様が今度は全ての人のために与えて下さった第二の救いの出来事です。神様は二つの出来事をこのように関連付けて考えるように私達を導かれ、導かれて知らされた者たちがその後 2 千年間、この神様の恵みの出来事を宣べ伝えるように神様が求められたキリストを頭とする教会を建て続けて来たのです。

3 将来お見通しのイエス様。さらに先に起こることも！

よって、この個所の話はただ将来を見通されているイエス様を伝える不思議な話というのではなく、この方が将来かけられる十字架の死を見通されていたこと、それに向かって今用意を整え向かって行こうとされていること、その意味は私たちの罪の赦しのためであったということに驚き、不思議がり、感謝しなければならない話なのです。